

学習者の言語分析による国語教育プログラムの開発

◆キーワード

コーパス 国語教育 表現指導

◆産業界の相談に対応できる分野

語彙教材開発 専門用語指導

教育学部学校教育 准教授

鈴木 一史

TEL 029-228-8210

FAX 029-228-8210

URL <http://kokugo.edu.ibaraki.ac.jp/>

e-mail kazufumi@mx.ibaraki.ac.jp

一言
アピール

本研究は、学習者の言語的表現行動について解明し、学習効果を高め学習意欲向上させます。

研究概要

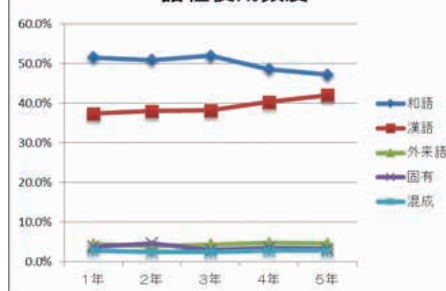
現在、言語研究の分野に於いて日本語コーパスの作成が進められてきています。近年、国語研が中心となって日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）が構築されました。その教育的利用に関わったプロジェクトに当初から参画し、教科書コーパスなどのサブコーパスの構築を進めてきました。また、学習者の作文をデータ化することで、作文コーパスを作成し、学習者の言語表現特性についての研究を進めています。

BCCWJを中心とした複数のコーパスを関連させることで、教育に資する表現教材や学習者の表現特性が明らかになってきました。以下の表は中学一年生から高校二年生まで、同じ時期に同じ条件で行った課題作文の分析です。

	人数	延べ語数	一人当たり	異なり語数	異なり語数/延べ語数	句点の数	一文の平均語数
1年	118	64,285	544.8	3310	5.15%	2691	23.9
2年	103	54,745	531.5	3488	6.37%	2378	23.0
3年	66	37,205	563.7	2765	7.43%	1592	23.4
4年	84	45,976	547.3	3396	7.39%	1834	25.1
5年	81	47,707	589.0	3559	7.46%	1945	24.5
ALL	452	249,918	552.9	7389	2.96%	10440	23.9

次のグラフにあるように、語種の使用頻度を見ると、学年が上がるにつれて「和語」が少なくなり「漢語」が増えていくことがわかります。漢語の性質と合わせて考えると、複雑かつ抽象的な概念形成がなされてきていることがデータから読み取れます。

語種使用頻度

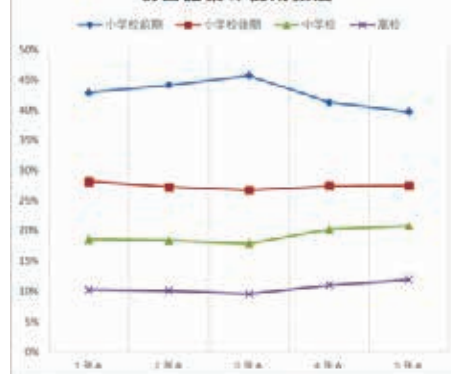


また、教科書コーパスから作成した語彙表には、何年生で初めて出てくる語彙かがわかるような「初出学年」

の情報がつけられています。ここから、学習者の作文で使われていることが、何年生の教科書に出てきたかを読み取ることができ、その結果として、理解語彙が使用語彙に変化していく過程をグラフから読み取ることができます。

これらの分析結果を、授業プログラムや語彙指導に生かすことによって、学習効果や学習意欲の向上につなげることを目指しています。

初出語彙の使用頻度

何に
使える？

学習者の語彙を基にした国語力の測定に関して利用できます。または、その学習プログラムについての応用、発展が可能です